

**2021年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要（WEB公開用）**

高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [堀田 治希]

学年・組・番号 [3年 D組 22番]

研究課題： 附属校連携の意義について
～「附属連携プロジェクト」の活動から見る早稲田の可能性～

(英文) The Significance of Affiliated School
～ Possibilities of Waseda from the Perspective of WASS ～

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について200～400字で記入してください)

附属連携プロジェクトとは、高等学院と本庄高等学院間の連携を促進するために活動している団体である。活動の一環として、附属連携の活性化や両学院生の附属連携への意識向上に関する研究を行う。この調査のため、弊団体は学院生が附属連携により関心をいだいてもらえるような生徒参加型のイベントを主催した。その際、イベント開催前後で参加生徒に附属連携に関するアンケートを取る。その結果を踏まえて、学院生の附属連携に対する意欲や関心に関する比較研究を行う。昨年度は両学院生、高大の教職員や関係者を囲み、コンペティション大会を主催し「早稲田大学全体をより良くするためのアイデア」を考案した。今年度は発足から2年目を迎える。前述したイベントで「附属連携を活性化させるためのアイデア」を両学院生に考案してもらうことにより、将来の早稲田に多大なる影響を与えることができると考えている。これらを持って、本研究を進めた。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について200～400字で記入してください)

前述したイベントは2021年12月18日から2022年2月6日にかけて現在進行形の形で開催している。そのため、イベント開催前後で両学院生の附属連携に対する意識がどの程度変化したかは、まだ評価することができない。しかし、イベントに参加した生徒の意見から両校における附属連携の意識に変化が起きていることは伺えた。具体的に、参加者からは「同じ附属校でも校風や規則などで異なった点がたくさんあって驚いた」「他校の生徒と交流することで、自分の学校の特色や良さに改めて気づくことができた」といった意見を聞くことができた。このように、イベントを通じて両学院生の附属連携に対する意識を高めることができていると考えられる。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 3年D組 堀田治希

研究分担者 3年C組 本多修造 3年D組 増野優斗 3年E組 石井鼓紋

担当教諭 武沢護学院長

(受給額： 2万5,000円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEBページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)

① 高等学院で実施した附属連携プログラムの様子



② プログラム参加者の集合写真

